

## 事業報告書（令和5年度）

事業名 親子で地域と繋がりはたらく場所作り

団体名 mama's color

担当者名 草川彩子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
<p>日時：2023年12月17日（日）10時～16時</p> <p>場所：and.r（岡山市北区榴津1202-1）</p> <p>参加対象：小学生までのお子様がいるご家族</p> <p>参加人数：50名</p> <p>イベント内容：ウェディングファミリーフォト、キッズフォト、マルシェの同時開催。 家族で衣装・ヘアセットし、家族写真撮影をメインとしたクリスマスファミリーイベントを開催し、そこに子連れでも楽しめるマルシェ要素を組み込み、「ママのはたらく」「将来の人材育成」「地元企業の協力」を巻き込んだ内容とする。</p>
2. ESDの視点
<p>①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか</p> <p>1) パバママを中心とした家族時間</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・夫婦が結婚した当初を振り返り、夫婦仲をより深める機会ができたことで、その姿を子どもたちも目の前で感じ大人になることのポジティブなイメージにつながった笑顔の絶えないイベントとなった。</li></ul> <p>2) 子育て中の母親の自立</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・イベントスタッフやマルシェ出店者は実際に子育てをしながら得意を生かして仕事にしているメンバーのみにしたこと参加者である母親が楽しみながら「自分にもできることはないか」と感じてもらえた。出店者と参加者の交流時間をゆったりと取ることで出店者の中には、イベント後バザーに自分が出店者として行動を起こした方もいた。</li></ul> <p>3) 学生の学びの場をつくる（現場体験）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公務員コースの専門学生に当日スタッフとして協力してもらい、イベント運営や子どもの見守り、女性の働く姿を実際に現場で見てもらい学校だけでは知ることのできない体験をしてもらえた。</li></ul>
<p>②どのように学び合いを取り入れたか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・イベント対象を出店者も参加者も小学生までの子どもを持つ家族・母親・父親としたことで両者にとって必要なニーズを知り、情報共有を行っていた。</li><li>・大人だけでも子どもだけでもなく、学生にも参加してもらうことで多世代交流ができ、進路のことや子育てのことを話す機会が得られた。</li><li>・岡山の企業協賛も得られたことで、地元の企業も子育て世帯を応援してくれていることなどを知る機会となった。</li></ul>

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

- ・ウェディングというイベントを通して、普段とは違う姿や昔を振り返り、夫婦の会話を持つ時間を作り子どもたちも自分の両親の歴史を知るきっかけとなった。
- ・実際に子どもを育てながら自分の得意を生かして行動を起こしている出店者の方々と専業主婦であったり、社会との繋がりをさらに求めている子育て世帯の母親との交流ができる時間を設け、運営も間を取りもち会話を促すなどを意識した。
- ・子どもたちも当日スタッフとして受付や飲食の提供、飾りつけなど大人に混ざってイベント運営を行ない働くということや色々な大人とのやりとりを経験し学ぶ時間となった。
- ・将来、公務員として子育て世帯や子どもたちとの関わりを持つ可能性のある学生さんに託児スタッフの手伝いやマルシェ出店者さんの手伝いなどを通して子どもとの関わり方、会社員だけではなく自営業などの様々な働き方があること、子育て世帯の母親が感じていることなどを目の前で感じてもらえた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・イベントに向けて、子育て中の母親と繋がる機会を増やしそれぞれの得意を生かして、意見を出し合いながらイベントを企画、運営する経験をし、イベント集客等で得た収入で実際に謝金を得る経験をした。
- ・普段は家事育児を中心とした生活をしている母親が実際にイベント運営、出店者である得意を生かして仕事にしている母親と繋がることで、イベント後自分も出店者として行動を起こしたり、自分のできる「はたらく」を模索し始めた方がいる。
- ・公務員という仕事を目標としている学生たちではあるがボランティアとして接客、子ども達、母親、出店者との関わりを持ったことで、始めは緊張していた学生たちがイベントを楽しみ、自分たちで考え動き、話す機会を作り「はたらく」という将来へのイメージや今まで知らなかった働き方を知る貴重な経験となった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・今後もイベントや簡単なしごとを通して、母親が実際に子育てをしながら得意を生かして企画、運営を行いさらに自分の可能性に気づき自分にとっての「はたらく」を考えるきっかけとなる環境を作っていく。そして、母親だけではなくその姿を見ている子どもたちも手伝いながら、将来の大人の姿に「やってみたい」「できるかも」と感じる親子で「はたらく」について考える機会を作っていく。
- ・はたらくことによる母親の能力に見合った、適正な経済力をあげるサポートを行っていくことで社会との関わりを実感する場を提供する。
- ・子育て世帯の母親だけではなく、学生や子育ての先輩である親世代など多世代交流をしごとを通してはかれる仕組みを作る。